

「識別力のある愛」ピリピ1：9～11 11・11・13

先行する神の愛。神は、私たちが心から愛され、御子を遣わされ、御子は私たちが心から愛して、私たちの罪の為に十字架で死なれました。また、主を信じる私たちの心に御聖霊が住まれ、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の実を結ばせて下さいます。神は、私たちに愛を注ぎ続けてくださいます。「私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」ローマ5：5。Ⅰ神が与えて下さる愛は、識別力のない盲目的愛ではなく、「あなたがたの愛が真の知識（御言葉と神の交わりである祈りを通して神を深く知る知識）とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになります」という愛です→1：9，10。神が与えて下さる愛は、識別力、真にすぐれたものを見分ける力のある愛です。このような真の愛が、夫婦関係、親子関係、兄弟姉妹との関係、隣人との関係、主の教会の人間関係を守り、靈的に育てます。Ⅱ識別力のない愛は、どんな愛でしょう。1. 盲目的な愛。正しい事、相手の状況が見えていない愛。2. 不正をしてまで与えてしまう愛。真の愛は「不正を喜ばずに真理を喜びます」Ⅰコリ13：6」。3. 真に相手の為にならないものまで与え、かえって相手に害を与える愛。4. 人に健全な自立心を失わせ、必要以上に依存させるような愛し方。相手がいつまでも自分を頼りにしてくれることで、自分自身の存在価値を決めようとはなりません。私たちの真の存在価値は、人の評価で上下するものではなく、神ご自身の変わらない愛、私たちの存在を喜んで下さる神の愛です→「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザヤ43：4）。Ⅲ神が与えて下さる識別力のある愛 1. 相手の真の必要とその人にとって真に益となる事は何か、神に祈り尋ねつつ、識別して与える愛。「あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができますように」：10。 2. 相手が求めるままではなく、自分が勝手に与えたいものでもなく、相手にとって真に必要なもの、益となるものを、祈りつつ識別して与える愛。祈り求めましょう。神の下さる愛は、求めに対して、すべてに「はい」と言うのではなく、相手を真に愛しているゆえに、求めに対して、正しく「いいえ」も言える愛です。イエス様は、地上の生涯で、人々のすべての求めに「はい」と応えられたではありません。いつも神の御心に従って、愛を実践され、ある求めには答えられませんでした→マタイ27：42，43、ルカ23：8，9。 3. 盲目的、近視眼的にならないためには、相手との健全な距離が必要です。遠すぎても（冷た過ぎる）近過ぎても（べったりの関係、一体化、同化＝自分の分と人の分の区別がつかない）、真の姿、真の必要が見えなくなります。健全な距離とは、自分と相手との間にイエス様を置くこ

とです。イエス様抜きに人と結びつくべったりとした関係は、決してうまくいきません。Ⅰコリ3：4。人と会う前に主に祈り、主を間において、主を思いつつ人との交わりを持ちましょう。交わった後も主に祈りましょう。主が守られるように。救助は、健全な距離を持ってなされます。 4. 愛の反対は、何でしょう？憎しみ、恨みも正解です。と同時に、愛の反対は、「支配」と言えます。創3：16。Ⅰペテロ5：3、マタイ20：25, 26、Ⅱコリ1：24。人を支配することも、支配されることも良くありません。夫婦、親子、兄弟姉妹の関係において。主の教会の中で、支配者は、ただお一人、かしらなる主イエスです。私たちが、教会のかしら、支配者となってはなりません→「私は教会に対して少しばかり書き送ったのですが、彼らの中でかしらになりたがっているデオペレテスが、私たちの言うことを聞きいれませんが、Ⅲヨハネ9節。かしらとなる、支配するとは、人の意見を聞かない事。支配の関係とは、健全に「はいといいえ」を言えない、言わせない関係です。ある人の意見には逆らえず、いつも、独りの人で動く状態。主をかしらとする教会は、御言葉に従います。御言葉に書いてないことは、それぞれが、祈りつつ意見を出し合い（会堂の壁の色、祝会の食事のメニューは何にするか等 ※こだわりは分裂を生む）、お互いの「はいといいえ」を聞き合いながら、今回は、今年、これでいきましょうと進むのです。ある時は、自分の意見が採用され、ある時は、他の人の意見が採用される。お互いの違いから学び合い、成長するのです。 5. それぞれの分をわきまえる愛。いつも識別できるように祈りましょう。①神の分=人を救い、成長させる。Ⅰコリ3：6。人をさばく。ヤコブ4：12。復讐。「自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。…『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする…』」ローマ12：19。②人にやらせ人のせいにするのではなく、主に祈りつつ自分自身がなすべき分がある。「人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです」ガラ6：5→③自分が干渉し過ぎて、おせっかいで人の分まで、やってしまうのは良くない。その人の分は、その人自身が責任を持ってやれるように、祈りつつ見守る。人は祈りつつ自分の決断で事を行い、失敗しても、人のせいにせず、失敗を通して学び成長して行くのです。ルカ22：31, 32。④一人では負いきれない重荷があります。それは、互いに協力して重荷を負い合うのです。「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法（神を愛し隣人を愛しなさい）を全うしなさい」ガラ6：2。私たちに、識別力のある愛はありません。ですから、日々、神に真の愛を祈り求めましょう。ピリピ1：9, 10の「あなたがたが」を「私」に変えて日々、自分の祈りとしてまず祈りましょう→「私の愛が、真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、私が、真にすぐれたものを見分けることができますように」。共に祈りましょう。